

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

- . 理念に基づく運営
- 1. 理念の共有
- 2. 地域との支えあい
- 3. 理念を实践するための制度の理解と活用
- 4. 理念を实践するための体制
- 5. 人材の育成と支援

- . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
- 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

- . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- 1. 一人ひとりの把握
- 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
- 3. 多機能性を活かした柔軟な支援
- 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

- . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
- 1. その人らしい暮らしの支援
- 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

1

6

1

2

1

2

2

11

9

2

合計 30

訪問調査日 平成 19年 4月 18日
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了16時 00分
 訪問先事業所名 グループホームよしの村
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名: 池田 民子 氏名: 橋口 直美

事業所側対応者
 職名 管理者
 氏名 竹下 明子
 ヒアリングを行った職員 (4)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670101973
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム よしの村
所在地 (電話番号)	〒892-0871 鹿児島市吉野町3823-1 (電話) 099-294-0501
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年5月29日

【情報提供票より】(19年 3月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット
利用定員数計	27 人
職員数(あやめ)	8 人
職員数(さくら)	9 人
職員数(すみれ)	9 人
常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算3人	
常勤5人, 非常勤4人, 常勤換算3人	
常勤5人, 兼務4人, 常勤換算3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	930円/日、1050円/日	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	27名	男性	0名	女性	27名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	13名	要介護4	8名		
要介護5	0名	要支援2			
年齢	平均 88.4歳	最低	75歳	最高	104歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「よしの村」に入ると、緑に囲まれた静かな環境のなかに、平屋建ての3棟が並んでいる。それぞれの玄関を開けると利用者と職員の笑い声が聴こえる。「晴れやか和やか 笑顔の花をさかせましょう」を理念に掲げ、職員の笑顔が和やかな雰囲気をつくっている。職員が利用者と共にテーブルを囲み、最近の出来事やニュースを鹿児島弁でわかりやすく話している。そこから歴史や懐かしい話へと会話が広がっている。「よしの村」みんなで馴染みの関係を築きながら、お互いに協力している。母体の医療法人との連携や訪問看護師による利用者の健康管理、緊急時の対応など、事業所の多機能を活かした支援も強化され、利用者と家族の暮らしを支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で運営理念についての改善を求められ、職員で話し合い、検討して、職員の声を反映したホーム独自の理念を作りあげている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は開催されていない。(会議の開催にむけて準備中である)
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を設け、家族の意見を出してもらった仕組みを作っている。家族の意見や要望を大切に受け止め、不安なことについては十分な説明をしている。利用者の重度化、看取りについての課題も現在検討されており、運営に反映していく姿勢が伺える。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として町内会に加入して、ホームの行事(しめ縄作り、餅つきなど)では地域の人々のお手伝いをいただいている。保育園の子供たちとの交流やボランティアを受け入れるなど、地域との連携に努めている。

評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、3ユニットの全職員で意見を出し合っ、今年新たに理念をつくりあげている。		理念の見直しをしているが、今後は地域密着型サービスとしての役割を目指した内容も検討してほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りの中で、理念について話し確認している。職員は利用者との関わりの中で、理念を意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、しめ縄づくりなどの協力を得ている。保育園の子供たちがホームで、おゆうぎを披露してくれる。ホームに来られる訪問看護師の協力により、在宅の家族への声かけなどもあり、地域の方がボランティアとして参加している。		以前行われていた中学校との交流(汚物入れ作り等)も今後また検討してほしい。行事だけでなく日頃から地域の人々への挨拶や声かけなど、ふれあうきっかけづくりに取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の結果を職員に報告して、理念の見直しなど改善に向けた具体的な取り組みをしている。今年度も職員に評価表を配り、全職員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在メンバーの構成中で行われていない。		地域密着型サービスとして、地域の理解と支援を得るためにも運営推進会議の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携はとっていない。		市の担当者にホームの考え方や実態を知ってもらい、地域密着型サービスとしての課題解決のために協働関係を築いてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に健康状態や生活の様子を伝えている。検査の結果など医療面に関しては、その都度電話で連絡している。よしの村便りの中でも暮らしぶりや職員の異動について報告されている。		家族の面会時に金銭出納帳の報告をして、確認印をもらっているが、郵送も検討しているので、今後も工夫して取り組んでほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、意見を出せる仕組みをつくっている。利用者一人ひとりの担当職員が家族からの情報収集や個別の相談にも対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットで馴染みの関係をつくること、そして職員の新しい視点での気づきを大切にしたいという管理者の考えで、3ユニット間での職員の異動を実施。利用者へのダメージを防ぐため、家族へは十分に説明し各ユニット1～2名の範囲で行っている。よしの村全体の協力体制がとれ、また利用者全職員の馴染みの関係ができつつある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の年間研修計画が立てられ、職員が参加している。ホーム内でも月1回、全職員参加で研修している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流はあるが、他のグループホームとの交流は行っていない。		同業者との交流の機会をもち、意見交換、勉強会などを通じて、ホーム内や地域全体としてのサービスの質の向上につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の施設からの利用者が多く、利用が決定してから本人、家族が見学に来られる。利用が開始されてから、家族の面会などの協力をもらい、馴染めるように工夫している。		利用の相談の時点から、職員と利用予定者とコミュニケーション、ホームで過ごす機会をつくるなど、馴染めるような取り組みも検討していただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔ながらの料理を教えてもらったり、また職員は利用者に、最近の出来事やニュースなどを鹿児島弁でわかりやすく話すなど、お互いに協働しながら支え合っている。職員も利用者への感謝の気持ちを大切に生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりの中で、本人の思いや希望の把握に努めている。月に1回の勉強会で、本人、家族の希望や職員の気づき、意見などを出し合い、チームとして把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望と主治医、ホームDr、訪問看護師等、それぞれの意見を聞き、職員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し、見直しを行っている。月1回の勉強会で介護計画の点検を行い、状態の変化に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、ホームDr、訪問看護師による利用者の健康管理と24時間の医療連絡体制が可能となっている。利用者の重度化への対応も検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療が受けられるように、十分に話し合いをしている。定期受診の支援も行っており、必要に応じて職員の勤務体制を変え対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会で終末期、重度化についての説明を行い、本人、家族また共に暮らす利用者、その家族の理解を求めている。		利用者の終末期、重度化に対する方針や支援について検討中であり、今後の具体的な取り組みを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、さりげない声かけや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる事(野菜きり、配膳、下膳など)を職員と一緒にしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日をおおまかに決めているが、希望にあわせて状態を見極めながら支援をしている。個々の居室のカレンダーに入浴日を明記して、利用者が意識できるように工夫している。職員の人員体制と利用者の安全面を考慮して、入浴時間は日中のみになっている。		利用者の生活習慣や希望を大切にして、夜間も含めた入浴時間を検討し、今後も一人ひとりに合わせた支援を継続してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作り、買い物、茶碗洗いなど、利用者一人ひとりの得意分野を発揮してもらえるような場面作りをしている。日程表も利用者が書いている。習字、貼り絵(外出した時に見た花を描いている)など、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの大型スーパーでの買い物やファミリーレストランでの外食、またお花見やドライブなど外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関の音も小鳥の鳴き声などで工夫しており、外出しそうな様子の時はさりげなくサポートしている。交番にも協力をいただいている。		利用者が自由に外に出られるためにも、運営推進会議で地域の人にも理解を求め、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いてほしい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行い、非常用の食料、飲料水なども備蓄している。		町内会や運営推進会議で地域の人々の協力をお願いするなどの取り組みを期待したい。夜間の災害を想定した訓練も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回、法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっている。水分、食事の摂取量を毎日記録して、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファ、ダイニングテーブルが置いてあり、ゆっくりくつろいでる人、職員と話してる人など、利用者が思い思いに過ごせるような配慮がしてある。フロアに飾っている利用者の手作りの作品などからも、季節感を感じる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの装飾品、仏壇などが持ち込まれ、その人らしく過ごせるような工夫をしている。		